

## マブシ：繭の支持体

蚕が繭を作れるようになったら、マブシと呼ばれる特別の骨組みに置かれる。島田マブシは、わらをねじって作ったジグザグの凹凸でできている。わらの間には小さな隙間があり、蚕が骨組みの中に繭を作ることを促進する。繭が出来上がった後、マブシから繭を切り取ることは容易であった。島田マブシの製造は安価であったが、毎年作り直さなければならなかった。

1920年代までに、島田マブシは事実上、改良マブシに代替された。改良マブシは簡単に折りたむことができ、開きやすい構造になっていた。1960年代半ばには、改良マブシは精巧な回転マブシ（文字通り、「回転式のマブシ」）に代替された。この回転マブシは四角い厚紙で作られ、内側には100以上の小さな四角い穴が空いている。蚕は、繭を作る場所を探すとき、頂点に引き寄せられるため、回転マブシ最上部の柘目は繭で一杯になる。すると追加した重みで骨組みが中心軸の周りを回転し、空の柘目を頂点に移動させる。この種のマブシは今日でもよく使われている。